木田市長の どんとコミュニケーション

「気持ちの良いあいさつ」

Vol.101

先日、ある会合で良い話を聞きました。老舗のご主人のAさんが河内町の庫蔵寺（まるやまさん）へウォーキングをしにいった時のことです。途中で会った二人の女子中学生が、彼に会うなり大きな声で「こんにちは」とあいさつをしてくれたそうです。彼はちょっとびっくりしつつ「こんにちは」とあいさつを返しました。また少し歩いていくと、今度は自転車に乗った男子生徒に会いました。男の子だから、たぶんあいさつはないだろうなと考えていたのに、その男子生徒も大きな声で「こんにちは」と言ってくれたそうです。

彼はこの体験に「すごく気持ちが良かった」と何度も感想を述べていました。河内の子ども達が素直なのか、加茂中の先生の教育が良いのかはさておき、あいさつが他人をとても気持ちよくさせることは事実のようです。Aさんは「鳥羽市中がこんなあいさつであふれれば、市外からいっぱい人が来てくれるだろう。消滅都市と言われても鳥羽は大丈夫だろう」と言っていました。

昔、長野県の野沢町の人々について同じようなことを聞いたことがあります。野沢町へスキーに行った人が野沢町の人達は大変親切であり、みんなが大きな声であいさつしてくれることに気付きました。その人は「どうして野沢町の人は、見ず知らずの私にこのようにあいさつをしてくれるのですか」と尋ねたところ、「自分のお客ではなくても、遥々遠方からスキーをするためにこの野沢町まで来てくれたのだから、あいさつするくらいは当然のことです」と答えたそうです。

鳥羽市は人口も減りつつあり、お伊勢さんのご遷宮も終わって今後厳しい状況も予想されると思います。他力本願ではなく、自分たちの努力で鳥羽へ来ていただく人を増やすことが、益々大事になってくるでしょう。佐田浜に建設している鳥羽マルシェもその一環です。競合する事業者のみなさんを心配しつつも、これからも自分達で何かをしていかないと、鳥羽自体がジリ貧になっていくと思います。今あるパイを奪い合うのではなく、パイそのものを大きくしていくことが重要です。鳥羽が置かれたこのような状況の中で、あいさつの励行は、誰にでもできます。お金もかかりません。みんなを気持ちよくさせます。その上、鳥羽市を訪れてくれる人達を増やすことができたら言うことはありません。中学生の皆さんに負けないよう、みんなであいさつを実行できたら最高です。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.132

フェアプレー

6月13日に開幕したサッカーワールドカップも中盤戦を迎え、各国の選手たちによる熱い戦いが連日繰り広げられています。そのサッカーを巡り、4月に行われたスペインリーグでのある出来事が話題となりました。その出来事とは、観客の一人が、ブラジル出身のダニエウ・アウベス選手に対し、バナナを投げ込んだのです。この行為は、黒人を猿扱いするという差別行為に当たります。アウベス選手はどれだけ心を傷めたことでしょう。しかし、彼が次にとった行動は意外なものでした。彼は、そのバナナを口にし、何事もなかったかのようにプレーを続けたのです。

バナナを投げた人物は、開催したホームチームから永久入場禁止処分を受け、「基本的人権の侵害」としてスペイン警察に逮捕されました。

一方、観客の心ない行為を瞬時にユーモアで切り返したアウベス選手の行動に対し、各国のサッカー選手をはじめとする多くの人が賛同し、ブラジルのルセフ大統領は「アウベス選手はスポーツ界の人種差別に対し、大胆かつ力強い反応を示した」と賛辞の念を送りました。また、国際サッカー連盟（以下「FIFA」）のブラッター会長は「われわれは団結し、全ての差別と闘わなければならない。ワールドカップではゼロ・トレランス（絶対に許さない）だ」と改めて差別を許さない姿勢を表明しました。このFIFAが主催する試合では、競技中のフェアプレーはもちろん競技場の外でもフェアプレーを、という精神を掲げ、すべての試合において選手とともに「フェアプレー」と書かれたフラッグが入場します。

4年に一度世界の頂点を決めるため、一流選手たちが集うワールドカップ。選手の技や試合結果だけでなく、フェアプレーの精神にのっとった人権の視点からも観戦してみてはいかがでしょうか。